

社会科学学習指導案

日 時 平成22年11月17日(水) 6校時

学 級 3年B組(男子18名 女子9名 計27名)

授業者 及川 勝彦

1 単元名・教材名

私たちの暮らしと経済

1 暮らしを支える経済

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の第2章 第2節 公民的分野の大項目(2)「私たちと経済」の中の中項目「ア 市場の働きと経済」に含まれる内容である。この単元では、「身近な消費生活を中心に、経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きについて着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる」こと、「現代の生産の仕組みやあらまし、金融の働きについて理解させるとともに、企業の役割と社会的責任について考えさせる」こと、またその際、「社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考えさせる」ことをねらいとしている。具体的には、身近な消費活動を中心とした経済活動の意義、消費活動の支払い手段、さまざまな消費者問題、市場のしくみと価格の働きなどの市場経済の基本的な考え方、現代の生産と流通のあらまし、金融の働き、企業の役割と社会的責任、日本経済の変化、食料と環境の問題などの学習を行う。

この教材に関する関連事項は地理的分野等で学習しているが、生産活動、消費活動に関連した具体的な経済活動の内容については、日常生活で興味関心があったり、体験したりしているが、しくみや因果関係等具体的に理解できてはいない。またテレビ、新聞の二ニュース等で日本の経済の状況、問題等は連日のように報道されている。日常これらの情報に接している生徒にとって、経済活動のしくみや諸問題について学ぶことは、意義あることであり、公民としての必要な基礎的内容を培ったり、社会の諸問題に着目し、自ら考えようとする態度を育てるうえでも大切なものと考えられる。

(2) 生徒観

本学級の社会科に対する関心は、男子の生徒が女子より高い傾向にある。既習知識の多い歴史的分野の学習に意欲を示す生徒、グラフの読み取りなどを含め地理的分野を苦手とする生徒もいる。公民的分野については、テレビ等を活用し様々な情報に触れている生徒もおり既得情報の差が大きく見られる。全体的に落ち着いた雰囲気の中で授業に臨み、授業中の挙手や発言する生徒は男子に多い。発問に対して論理的に答えを導き出し発表できる生徒もいるが、反面、直感的、断片的な反応しかできない生徒、社会的事象に関心が薄く、授業への取り組みにも消極的な生徒がいる。

そこで本単元では、身近な事象を取り上げ、興味・関心を高めるとともに、「書く活動」も取り入れ、論理的な思考力を身につけさせ、自分の考えを述べられるような力をつけたいと考える。

(3) 指導観

昨年度のCRT検査の結果は、概ね良好であり、岩手県学習定着度状況調査の結果は、思考・判断の観点が若干下回っているという状況になっている。

本単元では、消費生活を中心とした経済活動の意義や市場経済のしくみを具体的な事項をもとに学んでいく。その中で身近な事象を取り上げ、課題意識を喚起させる導入を工夫すること、生徒の日常生活と関連付けを図る学習を展開すること、学習プリント等を活用し基礎的・基本的事項の定着を図っていくこととする。また課題解決に迫る資料について書く活動を取り入れ自分の考えをまとめ、グループ、学級で交流し、多面的に考察できるような場面を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図りたいと考える。

3 単元目標

- (1) 個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追求することができる。
- (2) 個人や企業の経済活動のあり方について、さまざまな立場から考察することができる。
- (3) 課題追究のための資料を収集し、調べた結果をまとめ、発表することができる。
- (4) 経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産のあらまし、金融の働きについて理解することができる。

4 単元の評価規準

ア 社会的 事象への関 心・意欲・態 度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の 技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理 解
個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追求しようとしている。	①具体的な消費活動をシミュレーションすることで、的確な消費選択をすることができる。 ②自立した消費者について考察できる。 ③市場が寡占・独占状態のときの、価格の決定と消費者に与える影響について考察することができる。 ④銀行の業務、役割について考察することができる。 ⑤食料、資源・エネルギー問題の影響について考え、自分にできることは何かを考察することができる。 ⑥円高、円安の影響を考察することができる。	①需要と供給の関係のグラフを作成し、グラフから価格が需要と供給の関係で決まることを読み取ることができる。 ②製造業における日本の企業の特徴を読み取ることができる。 ③資料から経済のソフト化と第一次産業の実態を読み取ることができる。	①財とサービスの違いを理解し、経済活動の三主体を中心に私たちの消費活動を理解している。 ②所得と消費・貯蓄とのかかわりを理解している。 ③市場経済のしくみについて理解している。 ④企業の集中と独占が消費者の利益を損なうことがあることを理解している。 ⑤資本主義の経済のしくみ、生産・流通の過程を理解している。 ⑥株式会社のしくみと役割について理解している。 ⑦産業構造の変化と問題点を理解している。 ⑧円高、円安の意味、影響について理解している。

5 指導計画（13時間）

時間	学習内容	関連単元評価規準
1	導入	ア
2	暮らしと経済	ア エ①
3	消費と支払い	イ① エ②
4	消費者を守るために	ア イ②
5	市場のしくみ	ウ① エ③
6	市場で決まらない価格	イ③ エ④
7	生産と流通のしくみ	ウ② エ⑤
8	会社の組織と運営	ア エ⑥
9	金融のはたらき	ア イ④
10	日本経済の変化	ウ③ エ⑦
11	食料と環境の問題	ア イ⑤
12（本時）	為替相場・円高、円安	ア イ⑥ エ⑧
13	まとめ・補充	エ①②③④⑤⑥⑦⑧

6 本時の指導

（1）本時の目標

- ・為替相場の変動に関心を持ち、課題追求に取り組み、自分の考えをまとめようとしている。
- ・円高、円安の影響から、判断し、考えを述べることができる。（思考・判断・表現）
- ・円高、円安の意味と影響について理解している。（知識・理解）

（2）表現を活かす場の設定について

社会科における「表現力」とは、「何の問い、なぜの問い、どのように考えるか等について資料等を利用し、自分の考えを記号化し、または言語化し伝える力」ととらえている。

本時では、円高（円安）が消費者に与える影響について考える場に設定した。小グループで話し合う場面で、より多面的な見方、考え方ができるようにさせたい。

（3）具体的評価規準

	A 十分に満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への 具体的支援
ア 関心・意 欲・態度	意欲的に課題追求に取り組み、自分の考えを発表している。	課題追求に取り組み、考えをまとめようとしている。	日常生活の影響等を示し、支援する。
イ 思考・判 断・表現	資料等から多面的に判断し、まとめている（発言している）。	円高、円安のプラス、マイナス面から判断し、まとめている（発言している）。	円高、円安のプラス面、マイナス面を確認し、判断させる（まとめさせる）
エ 知識・理 解	円高、円安の意味と、日本社会への影響を理解している。	円高、円安の意味と、プラス、マイナス面を理解している。	円高、円安の意味を円中心に考えさせ、支援する。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	評価(○)、支援(*)、留意点(・)
導入 10分	1 前時の復習 2 課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 円高ドル安(円安ドル高)について知る。 現在の日本の状況について資料から確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習として調べさせる。 ○エ 円高(円安)の意味が確認できたか。 ・為替変動の要因については深入りしない。 ○本時の学習課題が確認できたか。
円高(円安)は、日本の社会にどのような影響をあたえているのだろうか			
展開 30分	3 課題解決 4 課題追求 5 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> 予想する 資料をもとに円高(円安)の影響をつかむ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 表現(グループ) <ul style="list-style-type: none"> 円高によりトヨタは減益で、イオンは差益がでた理由を話し合い、影響を考える。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 価格の変化から円高、円安の影響を確認する。 円高(円安)が消費者に与えている影響について、個人で考え、判断する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 表現(グループ・全体) <ul style="list-style-type: none"> 個人の考えをもとに、グループで、影響について、話し合う。 グループの発表を交流しあう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ア *何をしている会社か、考えさせる。 ・輸出、輸入の面から円高、円安の影響をつかませる。 *計算を苦手としている生徒に支援する。 ○ア ・シートを利用しまとめさせる。 ○イ ・プラス面のみならず、マイナス面、私たちの生活等多面的に判断させる。
終末 10分	6 学習のまとめ 7 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○エ ・シートを活用しまとめさせる。